

事例インタビュー動画 「兼澤 幸男 さん」 目次・テロップ書き起こし

【目次】

- Q.1 MOMIJI 株式会社の事業内容は？ 0 分 22 秒～
- Q.2 ジビエ商品にはどのようなものがありますか？ 0 分 44 秒～
- Q.3 食肉以外にはどのような製品がありますか？ 1 分 20 秒～
- Q.4 ジビエに関わる事業を始めたきっかけは？ 1 分 42 秒～
- Q.5 「害獣」を「まちの財産」に変える取り組みに込められた思いは？ 3 分 14 秒～
- Q.6 ジビエツーリズムを始めたきっかけは？ 5 分 12 秒～
- Q.7 ジビエツーリズムの参加者の反応は？ 7 分 43 秒～
- Q.8 ジビエツーリズムにはどんな方が参加している？ 8 分 39 秒～
- Q.9 御社のミッション「出る杭になれ」とは？ 9 分 19 秒～
- Q.10 高校生へのメッセージ 11 分 26 秒～
(～12 分 53 秒)

【テロップ書き起こし】

Q 1. MOMIJI 株式会社の事業内容を教えてください

弊社 MOMIJI 株式会社は
増えすぎた野生鳥獣の中でも、鹿に特化して
鹿の有害駆除で捕獲された命を有効活用しよう
ということで、ジビエ食肉加工をする会社です

Q 2. 食肉加工されたジビエ商品にはどのようなものがありますか？

大きく分けると
生肉でレストランやホテルに
そのまま卸で出荷するものと
小さいブロックに分けて
インターネットなどで小売販売するもの
そして、一般消費者に鹿肉の食べ方は
まだ浸透していないので
ただ焼いて食べられるように、味付けした商品や

常温加工品，ジャーキーや缶詰に至るまで
今，手掛けています

Q 3. 食肉以外にはどのような製品がありますか？

ジビエ食肉加工をする過程で
皮をはいで加工するわけですが
その，はいだ皮もなんとか活用したい
ということで，皮をなめして
革製品もつくっています

Q 4. ジビエに関わる事業を始めたきっかけを教えてください

まず，私がハンターになったきっかけは
世の中に鳥獣被害という課題があることは
知っていました
実際，私が食べているお米にも被害が及んで
地域の課題を自分自身が肌で感じるようになり
猟友会ではハンターの高齢化が進んで
若手がない，ということで
だったら自分がハンターになって
悪さをする鹿を捕獲してやろうではないか
ということで，自分自身がハンターになりました
ハンターの世界では
奪った命をありがたくいただくんだよ
決してゴミのように扱ってはいけないよ
という教えを受けまして
食べる努力はしましたが
たくさん捕れるんですよ
焼却炉にそのまま捨ててしまうような
流れになっていて
なんとか活用したい
なんとか食べるものにしたい
と思った時に

自分だけでは食べきれないだったら
みんなが食べられるものにしたらいいのではと
自分が奪った命を、しっかり活用したい
という思いから、ジビエ事業を始めました

Q5.「害獣」を「まちの財産」に変える取り組みに込められた思いを教えてください

元々、私は悪さをする鹿に恨みがあって
ハンターになりました
その悪さをする鹿を、効率よく捕獲したくて
鹿の生態を独自に学びました
山にこもって
何時になると、ここにエサを食べに来て
この季節になると群れをなす
みたいなことを
独自に、どんどん知っていききました
それは、円滑に捕獲を行いたかったから
効率よく捕獲をしたかったからなのですが
鹿たちは、一生懸命生きてるだけなんですよ
人間の都合で、害獣という
悪さをする動物です
害がある動物です
というレッテルを貼られた鹿たちは
ただただ殺される
そこに、なんかこう... 違和感というか
自分自身が人として、殺す側の立場としたときに
俯瞰(ふかん)して見たときに
自分は、ろくな死に方しないんじゃないかなと
同じ一つの命だとしたら
俺はただただ、命を粗末に扱っている
と思ったときに
本当に罪悪感しかなかったんですよ
それで、自分にできることって何だろう
と思ったときに、害を及ぼす鹿だけど
しっかりと食べてあげることで

ただゴミとして扱うんじゃなくて
食べてあげられることで
供養(くよう)にもつながるし
まちとしても、それを一つの観光資源だったり
本当の資源,「まちの財産」だという
言い方ができるんじゃないかと思って
「害獣」を「まちの財産」に
ということを我々の目標にして、活動しています

Q 6. ジビエツーリズムを始めたきっかけを教えてください

私の町は今、人口1万人いるとされていますが
私が子どもの頃は
害獣と呼ばれている鹿もいなくて
鳥獣被害もなければ
活気はあったんですよ、人も多くて
でも、どんどん年月が過ぎていくにつれて
少子高齢化, 担い手不足, みたいな
全国的に地方に「あるある」な課題が
私が住んでいるこの大槌町でも
同じように感じるようになっていて
実際、このジビエ事業を始めて
(害獣を)「まちの財産」にしたいという取り組みを
始めたときに
このジビエ事業を通じて
町全体が相乗効果で良くなったらいいな
という考えが芽生えてきたんですよ
となったときに
人をこの町に呼び込む1つのコンテンツにできないか
ということで、ツアーを始めました
当初、事業を始める頃
地域のハンターたちも一緒に
話し合いを行っていました
その中で、狩猟同行ツアーとか
そういったコンテンツをやったときに

よそからお客さんを呼び込めるんじゃないか
そういった意見を出してみたら
こんな不便なところに誰が来るかと
先輩方には言われたんですけども
この私の背景が猟場なんですけれども
こんな綺麗なところ、そうそうないよって
自分は思っていたんです
それで実際、私の知人を連れて行ってみたんですね
兼澤君が、普段どういうところで
どんな風に猟をしてるのか教えて
というので、案内をしたんですよ
そうしたら、その参加者たちがすごく感動して
お金を払わせてくれと
そして、実際コンテンツにして販売を開始した
時期が良かったということもあります
私が起業をしたのが、2020年5月で
(新型)コロナ(の感染拡大の)まっただなかで
人々は地方を求めています
人混みではなく
人のいないところを求めているので
ツアーのコンテンツを販売すると
即完売していました

Q7. ジビエツーリズムの参加者の反応はいかがですか？

参加者たちを山に連れて行って
この猟場に連れて行って
目の前で私が鹿を捕獲します
捕獲した鹿の前で、まず手を合わせるんです
その、手を合わせるといのは
「ありがたく命をいただきます」と
我々は何かを食べないと生きていけない
何かの命をいただいています

ということを、ひとこと参加者に伝えて
その鹿を持って帰ってきて、解体をして、食す
食べるところまで
一気通貫して(最初から最後まで)
やるんですけども
その参加者たちから
「本当にこれは食育につながることだ」
という言葉をいただいて
「なるほどね」と、私自身も
「食育」というコンテンツでの売り方もできるんだ
ということを勉強させていただきました

Q 8. ジビエツーリズムにはどのような方が参加されていますか？

最初は大人向けのコンテンツだったんですけど
今では小学生から参加されます
夏休みシーズンになると
東京から 60 人から 80 人位、毎年来て
狩猟同行ツアーを行っています
ほかには、ちょっとハードルを下げた解体体験
鹿を解体して食べるというコンテンツも
やっているんですけど
それは修学旅行の子どもたちが大槌町に来て
その(解体)体験コンテンツをやっています

Q 9. 御社のミッションの 1 つである「出る杭になれ」について教えてください

一般的に出る杭になるっていうのは
世の中の誰かが批判したって
「そんなの関係ねえ」と
突っ走る出る杭じゃないですか
やっぱり地方においては
地方の中で出る杭になるための戦略があるんですよ
村八分にならないために

いろんな方々に根回しをしなければならない
器用に生きる必要があるんですよ
ここを大槌に限り
私は出る杭になれたと思っています
ただ、これからね
チャレンジをしようと思っている若い方が
もし、地方に行って
知らないまちに行って、出る杭を目指すのであれば
先人の教えをしっかりと学んで
そのまちの、やり方というか
歴史、文化を尊重しつつ
その人たちに敬意を払って
自分はこうだったらいいということ
しっかりと理解してもらおうと
物事がやりやすくなるかもしれない
やっぱり、その地域の人たちからすると
新しい何かっていうのは、異物でしかないんですよ
その人たちにサポートしてもらえる形
そういう体制を整えられたら
やりたいことを何でもできると思います
自分がやりたいことだけを
誰の言葉にも耳を傾けないで、やれるかと言ったら
やっぱりそうではないので
その地域の文化だったり
そういうことは大事にしつつ
新しい何かを混ぜて、かき混ぜていければ
いいんじゃないかと思います

Q10. 高校生へのメッセージをお願いします

私自身、町の地域課題なんか
(以前は)一つも興味がなかったんですけど
このジビエ事業を通じて「まちおこし」というか
町に賑わい創出できているという
成功体験ができました

実際、これからの
次世代の方々にすごく期待していることは
私は40歳になるんですけど
40歳では思いつかないような想像力や発想は
やっぱり若さならではのだったり
今はいろんな情報を簡単につかめる時代です
情報と情報を結びつけるのは
若い人ならではの視点が大事だと思っています
実際、私はこの成功体験を機に
町からいろんな期待をされて
いろんな課題を解決しようと
今、奮闘しています
ただ、我々40(歳位)の世代になると
見えること、想像することには限界があるので
高校生ならではの視点を活かして
地域振興、発展につなげられればいいと思います
期待してます！